

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2012年10月22日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.8

＜個別指導塾、講習の提案力＞

冬期講習の設計もそろそろ終わったでしょうか。今年の冬は、12月22日から24日までが三連休となっており、開始時期が難しいと思いますが、受験学年以外は25日(月)からのスタートがいいでしょう。23・24日は、講習参加生へのガイダンス&フォローデーと、講習前に個々への密接なコミュニケーションをとっておきましょう!

さて、弊社の顧問先の個別指導塾では、冬期講習に向けて、10月中に案内文書・パンフレット・受講ガイド(提案書)を保護者へ渡します。その提案をもとに、11月中に全ての在籍生の保護者と面談をし、11月の最終週に在籍生の冬期講習の参加を確定し、12月は一般生の集客へ注力します。

保護者面談の前に、必ず講習の受講提案をしますが、今回は、この「提案」について考えてみましょう。受講コマ数を高めるためには、どんな提案がより効果的なのでしょうか。

結論から先に申し上げますと、『講習の提案はあいまいに書く』のがポイントです。具体的な提案では駄目です。

弊社が顧問先にお勧めしている受講ガイド(提案書)の内容は、

- ・ 2学期の学習状況
- ・ 提案コース
- ・ 各教科のお勧め時限数

以上の3点です。非常にすっきりとしています。

〇〇君への冬期講習の受講提案は、「英語8コマ、数学10コマ、理科6コマ、社会5コマ、国語5コマ」といった具合です。具体的な単元名は記載しません。

多くの学習塾では、各教科別に単元名を書いて提案しているのですが、それは行いません。

単元名があると、保護者が勝手に判断して、「この単元はいらない」とか、「この単元はこの時限数で足りるのか」とか、色々と口出しができるようになるので、先生が面談で負けてしまう場合が多いのです。

抽象的な提案では、保護者には判断材料がありません。ですから、内容を知りたいければ、面談で先生に聞く必要が出てきます。この点で、先生は保護者に対して、優位に話が進められるようになるのです。

入会の提案は、具体的な方が良いのですが、講習の在籍生への提案は、抽象的な方が良いのです。入会時とは、塾との信頼関係が大きく違うのですから。

提案が上手くいかないという個別指導塾の先生方には、講習の提案は抽象的に書くことをお勧めします。提案書が「一人歩き」しないようにしましょう!

【あとがき】

弊社のCEO 井上郁夫が京都で二日間の集中セミナーを行います。「生徒対応の達人養成集中セミナー」です。アドラー心理学に基づく科学的アプローチで、生徒対応・コミュニケーションの極意をワークショップを交えながら学んでいただけます。東京で毎年開催している大好評のセミナーです。初回10月28日です。期日が迫っておりますので、今すぐお申込み下さい。

・ 詳細

<http://www.management-brain.com/2012/seitoinkansai>

・ お問合せ：TEL 045-651-6922

・ Mail：mailadm@management-brain.co.jp

[テキスト1]

覚えていらっしゃる方も多いと思いますが、アメリカへ留学した日本の高校生がハロウィンの日、一般市民の銃弾に命を失ってから 20 年が過ぎました。その日、服部君は仮装し、近所の家にお菓子をもらいに行きました。(ハロウィン恒例の行事です)ところが、不審者?が来たと勘違いした家主は、銃を構え「フリーズ」(止まれ)と叫びます。しかし、(多分ですが)「プリーズ」(どうぞ、来なさい)と聞き間違えた服部君が近寄ると、家主はためらうことなく引き金を引きました。

建国の歴史的背景もあり、アメリカは一般市民でも気軽に銃を持つ社会です。毎年、多くの人々が銃の犠牲になっています。それでも、銃規制は進みません。我々日本人には理解し難いことですが、それ(自分の身は自分で守ること)がアメリカの文化です。グローバル社会が叫ばれて久しいですが、国によって文化・風土・考え方が違うことを知らなければなりません。そして思います。服部君が正しく「フリーズ」を聞き取ることが出来ていたら…。好むと好まざるとに関わらず、英語は世界の共通語になっています。日本企業でも英語を公用語にしているところが増えてきました。生徒の皆さんには英語を「学問」だけでなく「言語」として学ぶことが求められています。

実は、第二次世界大戦まで、アメリカ軍のライフル銃兵の発砲率は 20%でした。兵士の多くが、あるいは発砲をためらい、あるいは完全に的を外した発砲をしていたのです。

(元陸軍士官学校教授グロスマン著「戦争における心理学」)

それが、ベトナム戦争以降、特殊な訓練によって殺傷率を上げてきました。帰還兵の精神的疾患の増大が始まったのは、その頃からです。

ちなみに、服部君を銃殺した市民は、その後の裁判で無罪判決が出ています。

[テキスト2]

京都大学の山中伸弥教授(50)が今年度のノーベル医学・生理学賞を受賞しました。同じ日本人として嬉しいことです。湯川秀樹博士から数えて日本人として 19 人目の受賞です。もう、日本人がノーベル賞を受賞することが特別ではなくなったようです。

私が子どもの頃、日本人最初のノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は「伝記本」として全ての小学校の図書館に並んでいました。博士が唱えた「中間子論」は、さっぱり(今も)理解できませんが、日本中の小学生の憧れだったように思います。

ノーベル賞は論文を発表して数十年後に受賞するのが通例です。唱えた説が実証されるのに時間が掛かるからです。ところが山中教授は論文発表後 5 年というスピード受賞でした。それだけ、氏が作り出した iPS 細胞が世界中に与えた衝撃が大きかったのでしょう。iPS 細胞の研究は、難病治療への道を開くと同時に、倫理上、宗教上の問題が指摘されています。確かに、「神の領域」に人間が踏み込むことに恐れを感じない人はいないでしょう。しかし私は、人類の良識を信じます。

もともとノーベル賞は、ダイナマイトを発明したノーベル氏の発案によるものです。心ならずも大量破壊兵器を作り出し、大金持ちになったノーベル氏が後の世の平和と発展を望んで、賞は創設されました。

いわゆる「人類の良識・叡智」の賜物です。人類は間違いを犯しながらも、それを乗り越え、より良き社会を作り上げてきました。一人の人間も同じです。間違ったり、つまずいたりしながらも、より良き人生を歩むことが出来るのです。

私も、あなたも…。

人は、「デジタル(技術)に感心はするが感動はしない性質」を持っています。塾業界に当てはめて言えば、「指導技術に感心はするが感動はしない」ということでしょうか。「指導技術は必要条件ではあるが充分条件ではない」とも言えるでしょう。

多くの塾がニュースレターやメルマガを発行していると思いますが、「○○通信」の域を超えていない例を多く見掛けます。また、授業の最初に行なう 3 分間スピーチを疎かにしている塾も多い…。どうか、時事ネタを使った「小話」を心掛けてください。授業の最初に例として紹介した[テキスト]のような話をする事で、小さな感動を提供すると共に、生徒の『聞く耳』を作ることができます。一石二鳥です。きっと、スムーズに授業に入れることでしょう。

いまや東北有数の大手塾となった進学プラザグループですが、かつては集団のクラス指導で地元の高校を受験する中学生をターゲットに展開する数百名規模の地方塾でした。個別指導を展開し、さらに高校部には東進衛星予備校を導入して小中高の一貫指導塾を完成し、さらにM&Aも絡めて他県にも積極的に進出することで、9県で校舎数170以上、生徒数17,000人以上、グループ売上60億円以上という規模にまで発展しました。その発展の要因について今回は少し迫ってみたいと思います。

■理想的とも言える進化の過程

前述したように、集団指導の仙台進学プラザとしてスタートした同グループは、積極的に個別指導で生徒を集めている他塾にトップ自ら学んで歩き、独自の進化を遂げました。

講師一人が二人の生徒を教える「1:2」の指導に、ホワイトボードをいち早く取り入れ、「オーダーメイドのカリキュラム」や「個別指導専門の担任制」なども他塾に先駆けて全校で導入しています。また、小中高生の無料自習室の開放、欠席した場合の振替授業の設定など、「できることは何でもする」という姿勢を貫き、同時に「学力や性格の異なる生徒に個別に対応するとはどういうことなのか」を徹底的に追求し、それを具現化してきたのです。

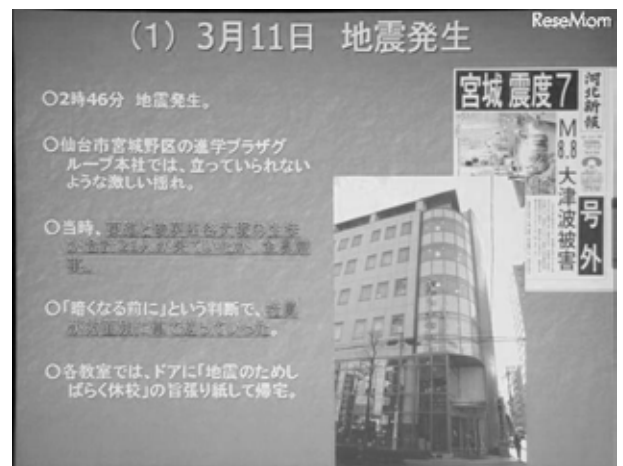
■発展の秘訣は「生徒や保護者のために」

進学プラザグループがここまで発展した過程を振り返ってみましょう。集団指導に加えて個別指導を始めたのが1993年です。集団指導の塾として成長に甘んじることなく、貪欲に「新たな収益の柱」を模索すると同時に、「どうしたら幅広い学力層の生徒に対して効果的な指導が可能なのか」を追求した結果、他塾の成功事例を全国規模で見学して良いものは導入したり真似したりするという姿勢が好結果を生みました。1999年には、

東進衛星予備校を高校部に導入し、それまでのライブ指導を一切辞めました。切り替えの潔さも見事です。2008年には、私立中学受験コースと公立中高一貫校コースを開設して、予想を超える新たなニーズを発掘することに成功しています。

■コツコツと・・・いつの間にか30年

地元である宮城県での校舎展開がほぼ完成に近づいた2000年には隣の福島県に進出し、2001年には山形県、2004年には青森県、2005年には茨城県のイー・エス・ティー（思学舎）をM&Aで傘下に収め、2007年には塾を買収して千葉県に進出、2009年には遠く離れた滋賀県と福井県にも拠点を獲得することに成功しました。1985年の創立から30年を間近に見て校舎展開は9県となり、生徒数も17,000人を超え、校舎数も140校を超えていますが、ここまでの歩みは決してスピーディーではなく、どちらかというとコツコツとしたものでした。しかし、それが良かったのではないかと思います。自分の足元をしっかりと見据えて、失敗しても大きく崩れないし慌てない、上手くいったとしても奢らないし浮足立たない、「自分たちを上回る塾がまだまだ全国に沢山ある」ということを自覚して学ぶことを辞めない姿勢を維持しています。そして、今では、全国の塾が列を成して学びに訪れる塾となっているのです。



昨年の東日本大震災で大きな被害を受けたが、これを機に新たな内部充実と危機管理対策の徹底を図っている

協役の研究 第七回 「ダスティン・ホフマン」



今回は、かつての青春スター、ダスティン・ホフマンです。その彼も今では 74 歳のおじいちゃんですが、依然として演技派俳優として活躍中です。芸域の広い彼のルーツを探りつつ、インパクトの強い作品について検証してみたいと思います。

■ピアニストの夢、断たれて・・・

米国カリフォルニア州ロサンゼルスで、1937 年に生まれた、ダスティン・ホフマンはユダヤ系の血を引くセールスマンの父の元で育ちました。高校卒業後にコンサートピアニストを目指して音楽学校に入学しますが、医学にも関心を持ち、音楽学校を落第する直前にサンタモニカ市立大学に入学して一年間学びました。そこで「演劇科は誰も落第しない」と聞き、落第しないために演劇科を選択したそうです。7 歳年上の名優ジーン・ハックマンとともにアクターズ・スタジオで学び、パサデナ劇場というところで二年間共演したこともあったといいます。その間しばらく二人はルームメイトでもありました。

■卒業でスターダムへ

映画出演 2 作目、1967 年の「卒業」で主役を演じた彼は一躍スターダムへとの上りました。相棒だったハックマンが舞台やテレビの端役しかもらえないのとは対照的に、彼は一気に世界的なトップスターとなったのです。まるで、ハックマンの運まで自分のものにしたかのように・・・。

「卒業」でアカデミー主演男優賞ノミネートとなったあと、「真夜中のカーボーイ」でも主役に指名され、肺を病み片足が不自由な「ネズ公」と呼ばれる小男を見事に演じましたが、この作品はアカデミー賞の監督賞と作品賞、そして脚色賞の 3 賞の受賞に輝きました。「卒業」とは真逆の人間像を演じ分けた彼の名声はさらに高まり、「真夜中のカーボーイ」は「ニューシネマの傑作」の一つとなったのです。

■衝撃の「レニー・ブルース」

ダスティン・ホフマンが主演した映画を語る上で避けて通れない珠玉の作品？・・・いやレアものかもしれませんが・・・が1974年の「レニー・ブルース」です。ニューヨークで厳しい下積み時代を経験した彼が、自分以上に苦しんだ、同じユダヤ系のコメディアン、レニー・ブルースを演じることは、芸域を広げるためというのではなく、「この演技で自分が俳優として駄目になっても構わない・・・」と自分を追いつめ、挑戦するためのものだったのです。この作品によって、彼には、演じる人間に自分をそっくり作り変えてしまう俳優という職業の頂点が見えてきました。

■「パピヨン」

脱獄不可能な島の牢獄から脱走に成功し、後にベネズエラの市民権を取得して幸せな老後を生きたという自伝的小説をもとに、スティーブ・マックィーンを主演として制作された「パピヨン」に、ダスティン・ホフマンは偽札作りの名人という脇役で登場します。

2 時間半という長編である「パピヨン」が観る者の心を捉えて離さないのは、事実に基づくストーリーが原作であること、その小説が全世界で 1000 万部を超える大ベストセラーになっていることだけではなく、「無実の罪」で終身刑になった男が途方もない執念で脱獄を図り成功する姿を、ものの見事に映像化しているからです。

作品の中で、彼は主演のスティーブを引き立たせるため、実に控えめな演技に終始しているのですが、それでも彼の存在感は主役に負けていませんでした。なぜなら、主役は生死の境を生き延びましたが、ホフマンの演じた「ドガ」は、生と死のどちらも演じ分けることができたわけですから・・・。

